



ボランティア活動と公共サービス

会長 波多野宏之

2021 年度総会も書面による開催を余儀なくされましたが、お陰さまで無事、原案通りご承認いただきました。メール・アドレスをご提供いただいている会員の皆様には既にお知らせしているところですが、p.8 に議案諾否の細部を記しておきます。他方、役員会はリモートの活用を図り、昨年暮れからは、リアルとリモート（Zoom 利用）でほぼ交互に実施。後者では首都圏在住理事も同等に論議に加わることができメリットも感じられます。

さて、本年度計画にあげた事業は、ギャラリー展示、下関北高「地域探究」授業への支援など今のところ予定通り進んでおります。豊北町ではコロナの影響もほどほどのところで踏みとどまっており、本年、前者については山口きらめき財団への、後者については山口県人づくり財団への助成金申請が採択されたことも幸いし、一定の活動展開が可能となっております。この財源確保の問題は、会の存続・活動の更なる展開にとって重要なファクターであり、地域の需要を勘案しながら中・長期的視点から取り組む必要があります。こうした点、NPO 法人コバルトブルー下関 ライフセービングクラブの活動が大変参考になります。過日、角島大橋を目の前にした拠点「渚の交番島戸」を訪れ、主宰者からお話を伺いました。

北高夢ロード通信

第9号 (2021.7)

設立は 2012 年。ライフセーバー育成、水辺の清掃事業、さらには空家を再生したゲストハウスの運営など。収益もあげつつ活動を展開するための組織づくり、資金調達の方策などが周到に考えられていて大変参考になりました。

ところで、このところ半年以上豊北町にとどまり、この地域の他の関連団体などの活動状況を見聞するとともに、他方では、資料館、図書館など地元の公共施設を一住民として利用して、改めてその貧困ぶりに気付かされました。その一例をあげれば、図書館でコピーサービスがないこと。町内唯一の豊北図書室は実質下関市立図書館網の一部でありながら、市立豊北中学校内に置かれて「学校図書館法による学校図書館の一般開放として運営」され、これは「著作権法第 31 条に規定する『図書館等』に該当せず、著作権者の承諾なしに複写サービスができない」という。豊北図書室と隣り合って生徒用の書棚（いわゆる学校図書館）があり、学校教職員は豊北図書室の運営には一切関与していない、にもかかわらず、並みの公共図書館扱いされない不思議——。この下関市の対応は、有資格の常勤司書の配置などを回避するための弥縫策か、といふかられます。夢ロードというボランティア活動の一方で、住民の情報や文化享受のための基本的な公共サービスのあり方について改めて注目し、必要な発信をしなければ、と思うこの頃です。

＜ギャラリー夢ロード＞第 11 回展 尾瀧正美『にぎめ』表紙原画展



5月11日(火)～23日(日)、コロナ禍に関わらず、無事予定通りに開催できました。

『和海藻(にぎめ)』は、豊北郷土文化友の会編集・刊行の年刊機関誌。創刊は1984年、『にぎめ』のタイトルで豊北町郷土文化研究会の刊行。前身は1968年発足の豊北町地方史研究会、1973年豊北町郷土文化研究会、2007年より現名称。創刊初期に『仁幾女(にぎめ)』の標題を用いた一時期も。表紙裏に、「万葉集巻十六に収録されている『角島の追戸(せと)のわかめは人のむた荒かりしかどわれとは和海藻(にぎめ)』に由来」とあり。

創刊から15号まで表紙画担当は衛藤和行氏。その不慮の死を受けて尾瀧氏が今日まで21年間、表紙と裏表紙42点を描き続けられました。今回、展示可能な37点の展覧を実現するため、前回展で既存の展示棚前面に設置した仮設壁を増設、補強して対応。これには山口きらめき財団助成金を活用しました。

表紙は角島大橋や神社仏閣などの景観を独自の視角から描いた風景画。裏表紙は主として果物などの静物画。角島などからの帰途ギャラリーに寄られた遠方からの訪問者で、さらに描かれた場所に立ち寄ろうという方も。中学生3人組の嬉しい来客もありました。なお、豊北生涯学習センターへの巡回展は、5月下旬からのコロナ対応市内公共機関休館措置のため予定を大幅に延期し、6月22日～8月1日の開催となりました。

(文責 波多野)

＜第5回栗野川流域＞ ホタル観察会

5月21日のホタル観察会は下関北高の生徒・保護者に呼びかける予定で学校側と打ち合わせをしていましたが、下関市での新型コロナウイルスの感染状況が悪化し、市立小学校・中学校の児童・生徒の活動自粛に合わせて、下関北高関係者への呼びかけを中止しました。

北高夢ロード実行委員会理事の方々への参加の呼びかけはいたしましたが、コロナ禍でもあり、参加者は大人4名となりました。

4日前の栗野川オガ瀬の下見の時にはホタル出現の定時午後八時の15分前ごろか、ちらほらとひかりはじめ、8時20には例年と同じ勢いのホタルの出現でした。気温の上昇により、例年より1週間は早いゲンジボタルの出現です。

5月21日の当日は気温がやや低めで、加えて風が強かったためにオガ瀬でのホタルの数は相当少なめでした。風に抵抗してそばの道路のコンクリート面にへばりついている個体もありました。高いところをオスが飛び、低いところの草にとまっているメスを探し、交尾をするには適さない環境であったようです。オガ瀬から太田橋の方に回りますと、川の周りの木立が茂り、風が遮られ、オガ瀬より多くのホタルを見ることができました。

豊田ホタルの里ミュージアム発行の「下関の自然」によれば下関では9種のホタルが確認されているとあります。地域探究授業の初日、自分の住んでいるところの近くでのホタルの観察を通して身近なところの生態系を考えてみることの大切さを伝えました。

(文責 岡崎)

「北高に来て良かった」 と思う体験を生徒に

6月17日、3回目の地域探究授業である。午後、校門近くに集まり、生徒12人と先生が滑川を観察した。

前回、6月10日の「田んぼの観察」では「ホウネンエビ」を見つけて興奮した。この日は前日の雨で期待度は薄い。しかし、生徒たちは「キャーキャー」声を上げ、エビやハヤなどを追っかけている。川で遊ぶこと自体が珍しく、つなぎを着けたまま、激しい水流に身を任せている光景は、実に不思議だった。



激しく水の流れる井関に座ってくつろぐ女子生徒

積み重ねた学校との話し合い

例えば、豊北高校の教頭との懇談会が2015年5月13日だった。時間をかけて信頼関係を築いた。同じ年の8月30日に県立高校再編説明会があり、その後、豊北高校と下関北高校が共存するなかで、まず、2017年5月31日に「第1回ホタル観察会」を実施する。

2018年5月31日には、校長室で「豊北の水プロジェクト」を立ち上げて、各分野や専門家に意見を聞いたこともある。

2019年4月、新生「北高」に地域探究授業が誕生した。その外部指導者として、同6月からこの活動に携わっている。3年目である。

自然観察とはいえない脱線授業

トノサマガエルを生まれて初めて捕まえ、大声をあげる男子、ヘビの死骸を見つけて「こ

れは何か？」と聞く女子たち。日常的に自然に親しんでいないのである。われわれ子ども



蛙を捕まえた得意顔

時代は違った。海と田んぼが遊び場であった。専門的な知識はない。“ふるさとへの想い”だけだ。だから、約1.5時間の授業は型破りになってしまう。例えば、「生物とは何か？」と生徒に質問する。

生物学的には、干からびた蛇を入れて記念撮影「動物・植物・細菌等で…」が正しいが、私の答えはこうだ。「生物とは…死ぬるものである」「死も生の一部で…いつかは消滅する。それが生物だ」という具合である。これは自然観察ではない。先生も笑っている。毎回こんな脱線授業なのだが、生徒には受けが良い。



北高に通うメリット

ある女子生徒が川の観察中に「北高に来て良かった」とつぶやいた。彦島から滝部まで片道1時間あまりの通学路を毎日通うこの高校生にとって、ここにどのようなメリットがあるだろうか。そう考えたとき、私は、この自然探究授業の意図を、はっきりと知った。

船で油谷湾を渡って手作りの塩工場を見学したり、角島灯台の説明ボランティアをしたりする。こんな経験は北高校でしかできない。そういうプライドめいたものが、新たなアイデアを浮かび上がらせる。理屈ではないのだ。“この高校に来て良かった”という気持ちは“生きていて良かった”に通じる。多感な彼らに「良かった」と感じる授業を、先輩として提供できることで、今は良しとしたい。

(文責 藤岡)

進化する「しかけ絵本」

5月に、絵本『はらぺこあおむし』で有名なアメリカの絵本作家のエリック・カールが亡くなりました。『はらぺこあおむし』をご存知の方も多いと思いますが、世界中でとても親しまれているしかけ絵本の1つです。果物が描かれた大きさの違うページ、あおむしがそれを食べながら穴をあけていく。シンプルだけど、とても楽しい仕掛けです。しかけ絵本には、私たちがその仕掛けに触れた瞬間、登場人物や物語に命が吹き込まれ、驚きや楽しさと共に、その世界と一緒に体験させてくれるという魔法の力があります。そんなしかけ絵本について、どんな種類があるか、どんな風に作られてきたのか、少しご紹介していきたいと思います。

本に仕掛けが用いられたのは、ヨーロッパの天文学や医学などの科学資料が最初だったといわれています。天体の動きや体の仕組みなどを詳しく説明するために、仕掛けを有効に使っていたのです。仕掛けが絵本に使われ始めたのは18世紀頃からです。イギリスで始まった産業革命による印刷技術の発展と共に、文化芸術も大きく広がり、その流れに乗ってしかけ絵本も進化していきました。

最も初期にしかけ絵本を考案したといわれているイギリス人のロバート・セイヤー（1725-1794）という作家がいます。当時人気があった人形劇やパントマイムなどを題材にした作品が多く、ページを折り返したり、紙をめくると違う絵が現れるというシンプルな仕掛けが使われました。（図1）



（図1） Robert Sayer "Harlequin" 1765

<https://glennhorowitz.com/events/a-brief-history-of-popup-books/>より引用

19世紀から20世紀にかけ、しかけ絵本は大量生産できるようになりました。子供の玩具や、クリスマスの贈り物としても人気になり優れた作家も登場して、仕掛けの種類や表現は多様になっていきました。特にドイツやイギリスでは、しかけ絵本の黄金期を迎えます。この頃に作られた仕掛けは、現代作られているしかけ絵本の基礎となるものばかりで、プルタブ式（図2）、ピープショー（図3）、パノラマ型、円形回転盤、劇場型（観音開き）、穴あき本、90度絵が立ち上がる仕掛け、音が鳴るものなどが作られました。



プルタブ式仕掛け（図2）

『しかけ絵本の基礎知識』

こづま美千子ほか著

大日本絵画 2006

めくる仕掛けを応用してできた仕掛けで、右側のタブを引っ張ると違う絵が現れ場面が変化します。



ピープショー型仕掛け（図3）

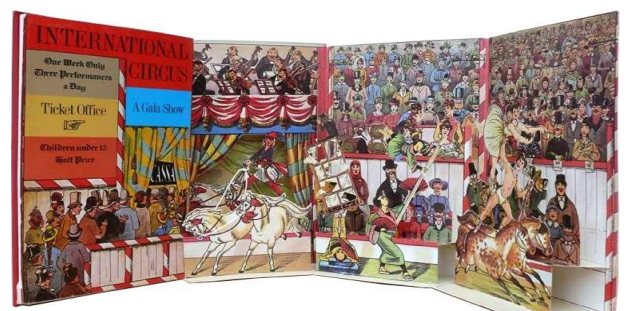
『The Tunnel Calamity』

Edward Gorey 著

Pomegranate 2015

穴を除くと遠近法のある情景が楽しめます。この仕掛け「覗きからくり箱」の始まりは15世紀頃からといわれています。

この黄金期に、しかけ絵本の最も代表的な作家ドイツ人のロタール・メッゲンドルファー（1847-1925）が登場します。様々な仕掛けに工夫を凝らして高度な表現を可能にし、芸術的な作品をたくさん生み出しました。代表作『インターナショナルサーカス』（図4）は、「未だこの作品を超えるしかけ絵本はない」と言われるほどの傑作です。現在では名前が付いた「メッゲンドルファー大賞」というしかけ絵本コンペティションがあり、彼に続く優れた作家が選ばれています。

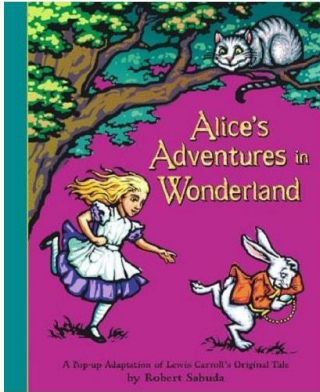


（図4）『InternationalerCircus』Lothar Meggendorfer 1887

<https://www.prepressure.com/printing/history/1850-1899>

より引用

20 世紀になると、ポップアップが登場します。ページを開くと絵が立体に立ち上がり、どの角度からでも楽しめる仕掛けです。1929 年イギリスで最初に発表され、最初は「自立式仕掛け」という風に呼ばれていました。ニューヨークの子供の本専門店ブルーリボン社が、この「自立式仕掛け」と、当時流行していたウォルトディズニーのアニメーションを組み合わせた作品『ポップアップピノキオ』（1932 年）を制作しました。この作品によって「ポップアップ」という言葉が初めて使われ人気になり、広まっていきました。その後もたくさんのポップアップ作品が発表され、現在ではアメリカを中心に、世界中にポップアップ作家が数多くいます。中でも、アメリカ人ロバート・サブダの『不思議の国のアリス』（図 5）はとても有名です。



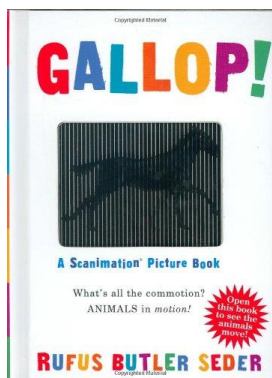
『Alice's Adventures in Wonderland』（図 5）
Robert Sabuda / Little Simon 2003



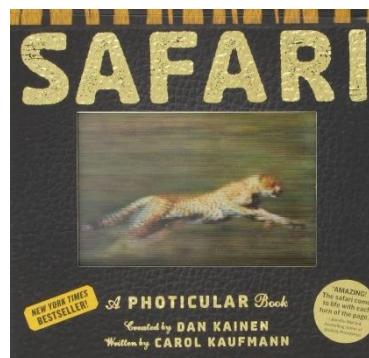
『The Circus in the Mist』（図 6）
Bruno Munari
Maurizio Corraini 2003

20 世紀を代表する作家をもう 1 人紹介しておきましょう。イタリア人のグラフィックデザイナー：ブルーノ・ムナリ（1907-1998）です。上記で紹介してきたような仕掛けを用いた作風とは一味違い、紙の質感や絵の色彩、イラストとページのデザイン的な使い方などで仕掛けしている、新しい視点での表現を作り出しました。『The Circus in the Mist = 霧の中のサーカス』の、トレーシングペーパーを使って表現した霧の世界は秀逸です。（図 6）

いよいよ現代、21 世紀ではパソコンの流通と共に動画の時代になったとも言えます。しかけ絵本はもう過去のものでしょうか…？いえ、しかけ絵本でも新たな仕掛けが登場します！2007 年アメリカ人ルーファス・バトラー・セダーにより、スキャニメーションと呼ばれる、白黒のシートを動かすことで絵がアニメーションのように動いて見える仕掛け（図 7）と、2012 年にはダン・ケイネン、キャロル・カウフマンの 2 人の作家により、まるで動画を観ているような仕掛けが誕生します。Photicular（フォティキュラー）という技術で、絵はカラーになり、絵の上に細かなレンズを用いて動かすことで、より繊細でダイナミックな表現が可能になったのです。（図 8）



『Gallop!』（図 7）
Rufus Butler Seder
Workman Publishing 2007



『Safari』（図 8）
Dan Kainen
Carol Kaufmann
Workman Publishing 2012

11 月のしかけ絵本展では、国内外の現代作家に焦点を当てて、様々な作品をご紹介しますと思っています。現在でもどんどん進化し続けているしかけ絵本。今の時代の私たちに、しかけ絵本が魅せてくれる魔法の世界と一緒に楽しんでいただけたら嬉しいです。

文責：伊藤祐里子

太翔館(下関市立豊北歴史民俗資料館) リニューアル開館10周年を迎え

豊北町歴史民俗資料館は「太翔館」の愛称で、地域の郷土資料館としてリニューアル開館してから、今年11月に10周年目を迎えます。

この資料館の前身は、皆さんもよくご存じのとおり、大正13(1924)年、滝部村出身の中山太一・豊三・喜助の中山三兄弟の寄付によって創建された、旧滝部小学校です。

昭和51(1976)年滝部小学校の新築にともない、校舎の取り壊し工事がおこなわれ、建設当時半地下にあった理化学教室をはじめ、両翼の教室の殆どは現存しません。

しかし、地元の人々の強い熱意で、本館と東西教室棟の一部が保存され、昭和54(1979)年3月31日、山口県指定有形文化財旧滝部小学校本館と指定されました。当時はまだ未指定だった西教室棟も、平成19(2007)年からの文化財保存修理工事調査で、古い建物構造をもつことがわかり、平成23(2011)年4月8日西教室棟も追加指定となりました。

幸いなことに、旧滝部小学校は大規模な修復工事が殆どおこなわれておらず、大正時代の創建当時の色合いやルネサンス様式の和洋折衷の構造もしっかり残っており、当時の装いそのままに復原することができました。

この建物自体やそれが今に残る意味を多くの方々に知ってもらべく、建物を展示資料(歴史景観文化財)として利活用していただき、「一学び・伝承・交流・憩い」の空間となるよう、豊北郷土文化友の会、菊舎顕彰会、滝部太陽クラブ、北高夢ロードをはじめ、地域の方々参画のもと、歴史民俗文化の郷土資料の収集、保存、調査研究、企画展、講座、シンポジウム、貸室等様々な事業を展開して参りました。

特に令和2年(2020)から新型コロナ感染拡大のなか、郷土資料を見つめなおすという視点から、「豊北の宝」というテーマのもと、廃校になった豊北町内旧小学校にあった学校教育資料や国登録有形民俗文化財『豊北の漁撈用具』の民具資料、角島大橋20周年を記念、角島に伝わる民俗祭礼行事の企画展を進めてきました。

令和3年(2021)も引き続き、「豊北の宝」でもある「人と郷土」をテーマに豊北町を開いた人々に焦点をあて、どのような思いや考えをもって「郷土」に尽してきたのか、その人の生き方や関連する資料を公開していこうと考えています。過疎化・高齢化など閉塞感がある地方において、先人たちが描いていたまちの将来を学び、新しい時代のまちづくりのための何らかのヒントになればと思っています。

太翔館リニューアル開館10周年記念事業

第1弾 令和3年9月4日(土)～10月17日(日)

「記念碑に刻まれた人々ー私たちのまち 豊北ー」

豊北町時代小学校の社会科授業の副読本には、郷土を開いた人々が紹介され、その人物を調べる学習がありました。「忘れられた人々」にならないよう、今一度先人の足跡を辿ってみるものです。

関連イベント 10月歴史ウォークと歴史講座を開催予定

第2弾 令和3年11月6日(土)～12月19日(日)

「中山太一が残したものー一村の若人都在りても煙染らぬクラブ色ー」／関連イベント 化粧文化と化粧体験

第3弾 令和4年1月15日(土)～2月27日(日)

「田上菊舎とふるさとー故郷恋しむかし忘れぬ梅見月ー」／関連イベント わいわいフォーラム／江戸時代へGO(七弦琴・香)／菊舎講座 等々を予定。

今後、太翔館ホームページや市報などに情報を提供していきますので、どうぞお楽しみに。

(下関市立豊北歴史民俗資料館館長 吉留 徹)

＜自分史の中での秘話＞

私たちが北高を卒業し、それぞれの進路に進んだ年の10月。第18回東京オリンピック競技大会開幕。開会式の日には休校、女子寮の食堂に集まってみんなで開会式の様子をテレビで見っていた。私たちと同年の最終聖火ランナーが最上段まで上って観客に向かってトーチを高く差し上げた後、トーチを斜めに下げ点火。炎がパッとのぞき出た瞬間の感動と興奮は今でも燃え続けている。期せずして、感動のどよめきが湧き上がった。

その前年昭和38年には、山口県で国体開催。その時も一日だけ自分の好きな競技の観戦に行くという日が設定された。私は、萩会場ソフトボールの観戦に出かけた。萩市民球場近くの歩道に人だかり。聞くと、「もうすぐ天皇皇后両陛下の乗られたお車が通過する」と。この千載一遇のチャンス。見逃す手はないと、並んで待った。かなり待った。通過する車の窓越しに両陛下が、私に向かってにこやかに手を振って下さった(と思っていたら誰もがそう思っているのだと言われ。ガックリ。ソフトボールの会場にも行かずに帰宅)。

さて、次は 私と「音訳」との出会い。思い違いからの出発・・・。

平成8年度から音訳ボランティアの勉強会に参加するようになった。「おんやくの勉強を始めたよ。」と話すと決まって「えっ、ほんやく？すごいね」と返事が返ってくる。私の発音も問題だったろう。また、「音訳」という言葉が人口に膾炙されているような言葉ではなかった。「えっ、どんなことをするの？」とすぐに聞き返されるからだ。

音訳とは、見ることを読むことが困難である

方々へ、墨字で書かれた文章や表・グラフ・絵・写真・その資料に提示してある物・事、全てを音声に変えること(＝音訳)である。

音訳する内容は、地域密着型で長門市広報・長門市議会だより・長門時事(新聞)・長門市社協広報・利用者へ届ける文書等である。録音したテープかCDを郵送で届けて聞いていただく。このボランティア活動は40年以上続いている。

実働をするようになるまでには、さまざまなステップがあり習得は簡単ではない。私にとっていちばん苦手なのは、アクセント。講師から宿題の音訳に、「それは山口アクセントですよ。」と指摘を受ける。山口県独特のアクセントという訳だ。山口県は標準語のアクセントに近いと聞いていたのだが、そうでもなかった。アクセントの細かい落とし穴はいっぱいある(くせや方言や時代等)。辞書を引くことは楽しい。正しく読めるとうれしい。

また内容を正しく伝える読みも重要。言葉をはっきり読み、読点の位置を変えても文意の通じるように読むことも大事。発音も文意も聞きやすく、美しい日本語にして届けたい。

H.7年1月のある夜中。うたた寝していた私は、間断なく呼名するような放送の声で目がさめた。声の主はNHKで今も大活躍の小野文恵さん。滑舌最高級。夜の静けさの中に澄んだ聞き取りやすい尋ね人の読みは続いた。阪神淡路大震災直後の事だった。

実は、私は「朗読」の読みを極めたかった。「音訳」ではなく。今、奥深い音訳に夢中。小野文恵さんに倣い、聞く人にわかりやすい音訳者になりたい。音訳＝私の体元気の証

木下
(文責 山崎陽子 第14期 s39.3 卒)

2021 年度総会報告

郵送(書面)にて実施しました北高夢ロード実行委員会 2021 年度総会は、お陰さまで次のとおり、無事終了いたしました。

4 月 24 日締め切りで集計し、会則第 12 条による総会成立に必要な正会員数(53 名のうち 27 名以上)のところ、返信が 31 通で過半数となり総会成立。第 1 号議案～第 6 号議案まですべて全員の承認を得ました。

また、賛助会員の皆様を含め、ご意見や近況報告をいただきました。

以下、一部を略記で紹介いたします。

- ・下関北高等学校の発展を願っています。何かひとつ特色ある学校を目指してください。
- ・[雨傘の収集と貸し出しサービス]2012 年より始め、9 年経過。年平均約 87 本を追加収集。この数は北高一学年の生徒一人に 1 本の割合。生徒のほか滝部駅利用者にも利用されている。[傘の収集・提供の協力者]は、1,000 本目標と言っており、このペースでは 11 年目 2022 年で達成できそう。
- ・しかけ絵本展楽しみます。東京にいてもなかなか目にすることができないのです。
- ・若い後継者(地元の)育成が課題です。
- ・若い方に加入してもらい、会の活動に発信機能をもたせてください。

北高新生祝意幕を掲示



2021 年 3 月 29 日(月)～4 月 26 日(月)本年も北高新生祝意幕を豊北高校同窓会、夢ロード実行委員会有志で、滝部駅、豊北総合支所など 5 箇所に掲示しました。

市民活動センターに夢ロード告知板

JR 下関駅近くにあるしものせき市民活動センターでは、活動支援のため、登録団体の会報やチラシなどを掲示する専用ボードを用意されており、本年より夢ロードもこれをお借りして各種広報に努めています。

北高へふるさと納税で応援を

【ふるさと納税】システムを利用、下関北高の教育活動充実に支援しましょう。詳細は県外在住会員宛前号同封の『山口県ふるさと納税の募集』の《払い込み取扱票》通信欄に下関北高校宛を記入、振込手続後、確定申告又は特例申請で税控除されます。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a10700/furusato/top.html>

問合せ先: 北高夢ロード実行委員会 城石郁裕

E-mail: japolo1329ik@gmail.com

会費納入のお願い

2021 年度会費を同封の振替用紙でお振り込みください。

正会員: 2,000 円

賛助会員(個人): 1 口 5,000 円以上

賛助会員(機関・団体): 1 口 10,000 円以上

郵便振替 口座記号: 01350-1

口座番号: 106942

加入者名: 北高夢ロード実行委員会

北高夢ロード通信 第 9 号(年 2 回刊)

2021 年 7 月 20 日発行

編集: 会報編集委員会(城石・古田・村上・戸田)

発行: 北高夢ロード実行委員会

〒759-5511 山口県下関市豊北町滝部 218-5

Tel: 083-782-0084

ホームページ: <http://yumeroad.org>

E-mail: kitakoyumeroad@gmail.com